

# 宇津ノ谷峠の散策

藤枝市と静岡市との境にある「宇津ノ谷峠」は古くから交通の要衝として、多くの人や物が行き交いました。そこには今でも、古代から現代における主要な道路6本と4つのトンネルが現存し、今もなお多くの人や物の交流を支えています。また、文学の古道とも呼ばれる鳶の細道には、古代から数多くの歌が詠まれ、今に残されています。

**② 旧東海道** キュウトウカイドウ  
江戸時代(約1600年~1870年)の東海道大名行列やオランダ商館長・朝鮮通信使・琉球使節などの行列が通った道で、国際色豊かな道であった。

**③ 明治トンネル** メイジトンネル  
明治・大正時代(1876~1930年)の東海道明治9年(1876年)に開通したが、火災により不通となり、明治37年(1904年)に修築された。最初のトンネルは、材木を組んだ合掌枠で作られ、中央で「く」の字に曲がっていた。修築工事で、まっすぐに造り直し、レンガで覆い、現在の形となった。施行から経営までを民間事業者により行われ、通行料の徴収を行った国内初の有料トンネルである。人力車・馬車の通れる道として作られた。国の登録有形文化財となっている。

**① 鳶の細道** ツタノホソミチ  
古代・中世(約700年~1590年頃)の東海道古くは「宇津の山越え」や「鳶の下道」と呼ばれ、平安時代の歌人在原業平が『伊勢物語』にこの峠のことを書き記してから全国的に名前を知られるようになった。

**④ 昭和第一トンネル(大正トンネル)**  
昭和時代前半(1930~1959年)の東海道着工が大正15年だったため、「大正トンネル」とも呼ばれる。自動車時代の到来に合わせて作られた。

**⑤ 昭和第二トンネル**  
昭和34年開通  
交通の増大に対応するため、昭和第一トンネルよりも標高の低い位置に建設され、所要時間が大幅に短縮された。

**⑥ 平成のトンネル**  
現在の東海道=国道1号線  
平成7年開通  
自動車の大型化・高速化・遠距離輸送等交通量の増大に合わせて作られた。この開通に合わせて、昭和第二トンネルは改修され上り線専用、平成トンネルは下り線専用のそれぞれ2車線道路となった。

**峠の地蔵堂跡** ここは歌舞伎『鳶紅葉宇津ノ谷峠』に登場する舞台である。  
一文弥ころしの場面—  
盲人の文弥が座頭の位を受けるため、100両の大金を持って京に上る途中、悪党に100両を狙われたが、伊丹屋十兵衛に助けられる。しかし、十兵衛もまた、旧主を救うために100両を必要としていたため、文弥の100両が欲しくなり、文弥を殺してしまうのである。

**御羽織屋** オハオリヤ  
豊臣秀吉の小田原城攻めの時に、この家の軒下に吊るしてあった馬の沓を自分の馬の沓と取り換えようと立ち寄った。この家の主人の石川忠左エ門は、沓を献上した。この時の会話を、秀吉は喜び、機嫌よく出発していった。戦いに勝利した帰途、再び立ち寄り、褒美として自ら着用していた陣羽織を与えた。この陣羽織は、静岡市の文化財となっている。現在、見学はできません。(2024年2月現在)

**慶龍寺** ケイリュウジ  
本尊は、十一面観音であるが、弘法大師作と伝えられる延命地蔵も祀られている。この延命地蔵には鬼退治の伝説があり、名物『十団子』の起源になっている。境内には、俳人森川許六(きよりく)が詠んだ「十団子も小粒になりぬ秋の風」の句碑がある。

**十団子** トオダンゴ  
昔は峠の茶屋で売っていた食べ物であったが、現在は、お守りとして親しまれ、宇津ノ谷集落の家の軒下に、厄除けとして吊るされている。

**猫石**  
昔、暗い夜道を歩いていた旅人が、この石の近くで猫の鳴き声を聞き、人家が近いと安心したとの伝説から、名前が付いたと言われる。(諸説あり)

**堰堤** エンテイ  
明治43年8月の大雨で、木和田川の最上流部に大きな山崩れが発生、土石流が起こり下流一帯に大被害を与えた。翌年7・8月にも大洪水が発生して大被害をもたらした。その為、河川改修と合わせ、8基のロックヒルダム(石積堰堤)を築くことで土石流を防ぐことに成功した。先人たちは、明治44年から大正3年までの長い年月をかけて、巨石を運び積み上げ完成させた。8基の堰堤と2基の流路工は、国の有形文化財となっている。

**蘿徑記碑** ラケイキヒ  
元は旧東海道を50m程上った左側に建てられていたが、現在は坂下地蔵堂の裏に移設されている。江戸時代の駿府代官羽倉簡堂(はくらかんどう)が、鳶の細道が消滅していくのを惜しんで建てたものである。『蘿徑』とは、『つたの道』という意味である。

**坂下地蔵堂** サカシタジゾウドウ  
本尊は聖徳太子の作と伝えられる延命地蔵で、「鼻取地蔵」の伝説で名高い。境内の鐘楼(ショウロウ)には、元禄15年卅山銘の鐘がある。

**ひげ題目の碑**  
天保6年(1835年)11月に、人馬の安全と天下泰平・五穀成就のために、日蓮宗徒たちが建てたものである。この近在では、最大のひげ題目だと思われる。

駿河なる宇津の山のうつつにも  
夢にも人に逢はぬなりけり

在原業平 『伊勢物語』より

岡部総合案内所  
☎ 054 (667) 6060

